

エリアデータ連携基盤推奨モジュールの管理及び
自治体への運用支援等業務

第7回エリア・データ連携基盤 技術セミナー

セミナーでの質疑応答

2025年12月

一般社団法人データ社会推進協議会



セミナー内での質疑応答(1/4)

● サービス設計、基盤運営目的

#	質問	回答	タグ
1	データ連携基盤の発展にはご説明いただいた「サービス同士のデータ相互利用」が重要だと思っていますがなかなか自治体の原課を跨ぐような利活用も進んでいないのが実態だと思います。これをブレイクスルーするようなDSA様(デジタル庁様)としてのお考えがあればご教授下さい。	デジタル庁の考えとして、ブレイクスルーのためには、ウェルビーイングやロジックツリーなどのフレームワークを活用し、それぞれの自治体や団体が持つ課題を抽出することが必要です。そのプロセスにおいて、「このデータとこのサービスを掛け合わせる」といったデータマップのようなものを作成し進めることが有効であり、この過程で分野横断の推進が可能になります。	利活用推進/分野横断/ブレイクスルー
2	「個人のニーズに最適化されたサービス」作りにおいて、実現性があり、かつ基盤の必要性を感じられるサービス作りにおいて、どのようなこと(用途、ターゲット層、データアセット等)へ目を向けていくべきと考えられますでしょうか。	基盤の必要性を感じられるかどうかは後回しで良いという見解です。サービス設計において、その取り組みを実現する際に分野間をまたぐことになるかどうか、価値を生むかのポイントです。費用便益分析の結果、効果が明確になり、関係者が納得できる状態になったときに、分野間の横断(データ連携基盤の必要性)が出てくると考えられています。この検討を円滑に進めるため、データマップやアセットをあらかじめ整理しておくことや、データモデルの標準化が、取り組みのハードルを下げるために有効です。	サービス設計/費用便益/必要性判断
3	デジタル庁・DASが感じているエリアデータ連携基盤の課題はなんですか？	デジタル庁・DSAがエリア・データ連携基盤が活用されるに至るまでにいくつかの課題を抱えているという認識があります。その課題を解決するための検討プロセス(共同利用ガイドブックに記載されているプロセス)について、この後の講演で詳しく説明し、聴講者にご理解いただこうとしています。	課題認識/検討プロセス/ガイドブック
4	熊谷市の事例は、結果になってしまっていて、課題は何だったのでしょうか？	熊谷市様は、コンセプトとして「市民目線でデータ利活用を推進し、まちのにぎわいと魅力を創出」を掲げています。その課題として、産業活性化、モビリティ、暑さ対策、スポーツといった諸分野でデジタルの力を活用して課題解決に取り組んでいるとしています。具体例には、都市ポータルからのクールスポットシェア情報発信や、地域イベント・クーポンの配信などが挙げられます。	事例/課題分析/ウェルビーイング

● 技術・標準(推奨モジュール)

#	質問	回答	タグ
5	Kong Gatewayのルートに対してのセキュリティ対策についてご教示いただきたいです。ルートに対してパブリックアクセスが可能な場合、様々な攻撃を受けると思いますが、どのように対応していますでしょうか。	複合的な解決方法(WAFなどのファイアウォール系のソリューションを使ってDDoS攻撃を防ぐなど)と、 Kong Gateway単独での解決方法 があります。 Kong Gateway単独では、無防備にルートを公開せず、なるべくアクセス制限をかけることが重要です。Kongでは複数のポリシー設定をかけることが可能で、「全体は拒否しているがここだけ許可」といった設定を入れることで、有効な人だけが許可される状態を実現できます。 アクセスが多い場合は、費用が増すものの複合的な対応が必要となる場合があります。	技術/セキュリティ/推奨モジュール
6	今後、推奨モジュールにNGSI-LDのブローカー(Orion-LD / Scorpio / Stellio)を追加することは検討されていますか？ FIWARE コミュニティとしても、新しいチュートリアルや Smart Data Models は NGSI-LD 前提で進んでいるかと考えております。今後の方向性について教えてください。	エリアデータ連携基盤の構築、活用の検討を進めるにあたっては、内閣府の科学技術イノベーション担当が公開しているスマートシティリファレンスアーキテクチャ(SCRA)をベースとしており、デジタル庁と科技イノベーション担当者間で連携を取りながら事業を進めております。SCRA第4版では、データ連携の標準技術としてNGSI-LDの利用が望ましいという言及があると承知しております。 現在、エリアデータ連携基盤の推奨モジュールとして公開・活用を推進しているFIWARE OrionはNGSIv2をサポートしている一方、FIWARE Orion-LDをはじめとする新しく登場しているブローカーはNGSI-LDをサポートしている状況となっており、また、FIWAREコミュニティでも新しいチュートリアルやSmart Data ModelsがNGSI-LDを前提に進んでいるという情報も把握しております。 上記のような状況も踏まえ、NGSI-LDの推奨モジュールへの追加についてサポートの是非について技術的な標準化の観点及び必要性、実現可能性、および導入・運用コストなどの観点から検討を進めてまいります。	技術/標準化/推奨モジュール

セミナー内での質疑応答(3/4)

● 運用・普及(体制、コスト、支援)

#	質問	回答	タグ
7	データ連携基盤の実装(アーキテクト設計、コーディング、サービス開発、保守など)はデジタル庁職員が実施するのか、またはベンダーが受託するのですか？	エリアデータ連携基盤については、デジタル庁職員が実装するのではなく、各都道府県の皆様やベンダーの皆様のご協力を得て、各自治体または各団体が主体となって整備・実装し、その後の運用も行っているものと認識しています(デジタル庁が実装するものではありません)。	実装/体制/デジタル庁の役割
8	地方自治体では、エリアデータ連携基盤の構築にあたり、連携するサービスやそれに寄与する有益な情報が集約されていないのが現状です。そもそも論になってしましますが、連携したいサービスの開発、情報の集約機能から取り組みたい場合の有効な制度等ございましたらご教示ください。	デジタル庁もこの問題意識を持っており、現在、デジタル庁ホームページ上でエリアデータ連携基盤のページを新しく公開しています。今後、データ連携の改定やガイドブックの改定、あるいはホームページのサイトなどで、財政面での支援を含む、導入にあたってどう進めればいいのかといった情報発信に努めていこうとしています。	導入支援/情報集約/財政支援
9	デジタルエリアデータ連携基盤は、地域別にカスタマイズして使っていくようなものという理解でしょうか。それとも本当に共通な基盤を使っていくもののでしょうか。	デジタル庁の考えとして、地域(エリア)で最適なデータ連携基盤をそれぞれ構築していただくものと認識しています。コアとなる推奨モジュールを活用して構築していただくのが大前提ですが、その上にどういうサービスを載せるか、どう利活用していくかは、各エリアによって異なるため、カスタマイズしていただくという理解で間違いありません。全てが標準の通りであるわけではありません。	アーキテクチャ/共同利用/カスタマイズ
10	公域の検討の進捗状況の説明がございました。推奨の割合はどの程度ですか。	非パーソナルデータ(非パーソナル基盤)の連携で言いますと、およそ 7 割ぐらいが推奨モジュールである FIWARE Orion を使用している状況です。一方、パーソナルデータ連携が可能な基盤(全 44 基盤)に対して、推奨モジュールを利用している割合は10 に満たない程度であると集計上把握しています。パーソナルデータ連携の導入形態は様々であるためです。	普及状況/推奨モジュール/パーソナルデータ

セミナー内での質疑応答(4/4)

● 国の方針(他の国施策との関係性)

#	質問	回答	タグ
11	内閣府主導のSIP(戦略的イノベーション創造プログラム)で創出されたデータ・アプリケーションサービスなどの連携・融合も今後進むのでしょうか？	SIPで創出されたデータやアプリを直接使うという具体的な話は今のところ進んでいません。ただし、デジタル庁のデータ連携のベースは、内閣府の科学技術イノベーションの担当の方が出しているスマートシティリファレンスアーキテクチャが基盤となっており、担当者間で連携は取っているため、今後何かあるかもしれないが、現時点では具体的な話は進んでいないとのことです。	国施策連携/広域連携/SIP
12	デジタル庁が取り組んでいる公共サービスメッシュとの違いについて知りたいです。データ連携基盤の方が20業務以外の幅広いデータも取り扱うという理解でよろしいでしょうか？データ連携基盤で、メッシュから得られたデータを使うこともあり得ますか？	公共サービスメッシュは、基本的に20業務(自治体の中での情報の利活用と行政の情報連携)を目的としています。 データ連携基盤は、民間も含めたものになるため、20業務よりも広い領域を扱い、質問者の理解の通り、幅広いデータを取り扱うという認識で間違いありません。将来的に、公共サービスメッシュと民間との連携(APIを介した連携)も検討されているという話は聞かれています。	国施策連携/公共サービスメッシュ/データ範囲
13	デジタル庁自身が、国の複数官庁間の公共サービス・データ連携による国民の日々の生活分野での事例アプリケーションを開発・実装する事例はありますか？	デジタル庁の回答者からは、質問で述べられているような、省庁を横断する具体的な事例については、自身が聞き及んだことがないため、回答できないとの旨が伝えられました。	国施策連携/省庁横断/事例
14	データ連携基盤の使用は内閣府が進めている新総合防災情報システム(SOBO-WEB)でも実施しているのでしょうか。	データのやり取りという面では、総合防災情報システム(SOBO-WEB)と推奨モジュールは異なっていると認識しています。また、エリアデータ連携基盤ではデータ項目を画一的に取り決めていません。一方で、新総合防災情報システムは具体的な業務を行うためにデータ項目を取り決めています。これは、具体的な業務をするためのシステムと、地域のエリアデータ連携基盤をどう作っていくかという観点の違いが出ているためです。	国施策連携/防災/データ項目

● 属性:事業者・その他・非公開

#	ご意見	回答	タグ
1	エリア連携の行きつく先は1つに統合することだと思われる。DNSの委譲関係のように、トップに問い合わせをすれば、すべての自治体のデータを閲覧できるようなシステムが構築できると素晴らしいと思いました。	現状の基本的な考え方として、エリアデータ連携基盤は、その活用を通じて地域でのデータ利活用を進めていただくことを目的としているため、 地域(エリア)で最適なデータ連携基盤をそれぞれ活用していただくことを念頭に置いており、エリアデータ連携基盤は各エリアの状況に合わせて機能をカスタマイズしていただくことを前提としております。 その上で、 共同利用、基盤を統合して合理化していくことを自治体の状況に応じてご検討いただければと存じます。	統合/アーキテクチャ
2	日常利用から災害時の利用まで、幅広く利用できると良い(行政～民間・医療～警察・消防～自衛隊(国))	エリアデータ連携基盤の目的は、 個人のニーズに最適化されたサービスの提供 と考えており、 分野や組織を横断したデータ利活用を進めることを重視しています。 今後、 広域(民間も含めたもの) に、医療、介護、防災といった幅広い分野、また様々なフェーズのサービスがエリアデータ連携基盤に接続されることを通じたデータ利活用の推進を引き続き支援してまいります。	利用分野/広域連携
3	特定分野の機器・システム等を自治体へ収めるにあたり、エリア基盤との関係やデータ連携については現場によりまちまちで、個別ソリューションになりがちと思う。今回、国・デジタルの方針とDSAの検討状況が判ったのは良かった。全国的な普及には時間がかかると思うが、提供業界を含めたステークホルダーの巻き込みが必要。	地域間でデータ連携を進めるにあたり、 推奨モジュール(APIゲートウェイやデータブローカーなど) を公開し、これらを活用して システムを構築いただくことを促進してまいりました。 また、取り組みを円滑に進めるため、 データマップやアセットを整理し、自治体標準オープンデータセットの活用などを通じて標準化されたデータ利用を推進しています。	標準化/普及促進

● 属性:地方公共団体(都道府県)

#	ご意見	回答	タグ
4	<p>システム開発において、国のシステム開発方針が明確でタイムリーに伝えられていないことで、各自治体のシステム開発が二重投資になったり(その不安があり)進まないのではないかと思います。</p> <p>常に同じ質問が出ているので、そろそろ明確に決めて、計画的に進めて頂きたいです。</p> <p>(中略)アーキテクチャとしての方針明示が必要ではないかと思います。</p>	<p>デジタル庁においては、「データ連携基盤の共同利用ガイドブック」などにおいて、エリアデータ連携基盤の構築や共同利用についての方向性についてお示しさせていただいているところです。</p> <p>広い観点からビジョンを決め、個別課題に落とし込むことで、継続的な利活用を可能にし、投資の方向性を明確化することができると考えています。</p> <p>エリアデータ連携基盤の共同利用によるコスト削減を図り、二重投資の回避に繋がるよう努めています。</p>	アーキテクチャ/方針明示/二重投資
5	<p>エリアデータ基盤を導入する場合のコストについて、先進的な事例などから必要なコストの規模感だけでも教えていただけると助かります。</p>	<p>デジタル庁においては、地方自治体から導入にあたって財政面での支援を含む情報発信の要望があることを認識しており、今後、ホームページやガイドブックの改訂などを通じて情報発信に努めてまいります。</p>	費用/財政支援
6	<p>本日のセミナー資料は配布していますでしょうか。今後の参考にいただければ幸いです。</p>	<p>本セミナー資料は、申し込みサイトにて公開しております。また、セミナーのアーカイブ動画も公開中です。</p>	運営/情報公開

